

小学校第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

期 日 平成25年10月10日（木）第5校時
場 所 南阿蘇村立中松小学校 4年教室
指導者 教諭 樫川 貴子 (T1)
教諭 山下 洋 (T2)

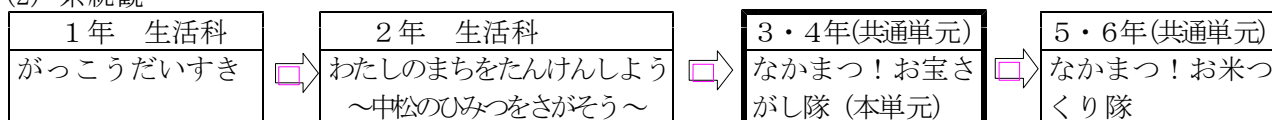
- 1 単元名 「なかもつ！お宝さがし隊～発見した『宝もの』をまとめ、伝えていこう～」
- 2 単元について

(1) 単元観

本単元は、児童が、阿蘇の自然とその恵みによって、阿蘇の人々の暮らしは支えられており、農業や林業、観光など阿蘇の自然と深く関わっていることを理解し、その恵みに感謝しながら、豊かな自然を守っていこうとする人々の願いや思いに気付き、共感することで、郷土愛と地域貢献、自然保護の実践力を育てることをねらいとしている。特に、第4学年では阿蘇が生み出す湧水に着目しながら、熊本市の人口70万人をはじめ、周辺市町村住民の生活用水すべてを地下水で賄っていること、さらに、外輪山の外側では、福岡県の筑後川流域市町村、大分県や宮崎県方面までの九州の水瓶になっていること、そして、阿蘇カルデラの特殊な地形による水の循環のシステムなどについて社会科や理科の教科と関連づけ、その仕組みに気付かせ、追究させたい。

そこで、中松地区を実際に調べ、阿蘇の地形によって生み出される美しい湧水池が多く点在していることに気付かせ、その湧水池や上流域で阿蘇の自然や水を守っておられる多くの地域や関係機関の方々と交流させる。そして、その方々の願いや思いに共感させることで、環境保全や地域貢献の意欲を高め、自分たちにできることを考え、協同的に探究活動を行い、実践化へと高め、地域貢献とともに自然保護に関して自己有用感や達成感を味わわせたい。

(2) 系統観



(3) 児童観

- 本学級は、男子11名、女子5名、計16名であり、大変元気で、明るい雰囲気である。
- 3年時において「なかもつお宝さがし隊」の学習を通して、中松全般の自然や伝統についてまとめ、ポスターやリーフレットを公共の場に掲示して情報発信を行っている。その学習では「なかもつの宝」を意欲的に発信しようとして大変学習意欲が高かった。
- 自分の意見や考えを積極的に発表する児童もいるが、自分の思いや考えをうまく整理したり、表現したりするのが苦手な児童も数名いるので適切な支援が必要である。
- 相手をきちんと見て挨拶したり、周りとのコミュニケーションをしたりすることを苦手とする児童がいる。
- 協同的に課題を解決する話し合い活動では、他者の意見をまとめたり、自分の考えと比較したりしながら聞くことが難しい児童が多いので、なかなか考えがまとまりにくい。
- 単元前の学校テーマについての意識は次のとおりである。

質 問 項 目	回答項目	人数	回答項目	人数
南阿蘇村（中松）の「宝物」	水源	16	一心行の大桜	11
	日本一長い名の駅	9	阿蘇山	2
「宝物」を調べる方法	調べに行く	8	パソコン	2
	人に聞く	5	ファックス電話	5
「宝物」のよさを伝える方法	駅などに貼る	7	発表する	2
	ポスター・紙にまとめる	5	CM	1
	チラシを配る	3		
調べたことをうまく伝えるために必要なこと	はっきりと伝える	5	発表の仕方を練習する	2
	紙にまとめる	2	国語などの学習を活かす	1

(4) 指導観

- 阿蘇の自然とかかわりのある地域の方や、関係機関などのゲストティーチャーと交流しながら、体験型学習を多く取り入れる。
- イメージマップを用いて、中松のよさについて自由に出し合ったり、社会科「水はどこから」理科「自然の中の水」との関連を持たせたりしながら、中松に点在する南阿蘇湧水群に焦点化して課題設定へとつなげていく。
- 学習課題やそれに向けての探究学習を明確にするために、学習計画表をつくり、学習の見通しを持たせる。

- 話し合ったことをもとにしたり，ゲストティーチャーなどの助言を聞いたりしながら，自分（たち）の考えを修正する場を設ける。
- 課題設定や考える過程では感想や考えたことをグループや全体で発表し合い，それに対する新たな感想や考えを自由に出し合えるような協同的に解決していく学習の場を多く設定する。
- 自分たちが調べたことや取り組んでいることの方角性を確認するために情報の交換を計画的に行う。
- 自分たちが調べている内容について，異学年と交流することで，互いに有効な情報交換ができるようにする。
- 学習課題や目的意識をいつも明確に持たせ，根拠や理由に基づく考えや思いを出し合ったり，話し合ったりして，十分に練り上げを行うことで集団の意思決定を行い，協同的に課題を解決していく楽しさや達成感を味わわせる。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
【視点1】本単元では，自分たちの身近な南阿蘇湧水群や阿蘇の自然に目を向け，そのすばらしさやよさを発見し，根拠や理由に基づき発信していく方法を話し合いながら，全体としての意思決定を行い，協同的に課題を解決していく授業を目指す。また，阿蘇の自然と自分たちの暮らしを関係付け，どのような実践ができるのかを自分と友達との考えを比較させ，その考えを修正・工夫させ，思考力・判断力・表現力等を育成していく。	【視点2】本単元では，南阿蘇湧水群を調べることで分かった阿蘇のすばらしさやそれらを守る人々の思いを，他へ発信したり，ボランティアを実践したりして達成感や自己有用感を味わえる授業を目指す。そのために，学習の足跡をまとめたり，振り返ったり，自己評価，相互評価をはじめ，ゲストティーチャー等による他者評価や助言の場を多く設けたりする。さらに，新たな課題の発見やそれを解決しようとする意欲を高める。	【視点3】本単元では，水源をはじめ，ゲストティーチャーへの取材が多いことから，児童が，タブレットPC，デジタルカメラ，ICレコーダー等を主体的，効率的に活用して情報をまとめたり，発信できるような授業を目指す。また，情報発信やデジタルポートフォリオに，Webの活用を行う。さらに，毎時間の授業について効率的，視覚的に評価・分析できるようにタッチパネルPCを活用する。

3 単元の目標と評価規準

単 元 の 目 標	(1) 中松の自然や人に関心を持ちながら身近な南阿蘇湧水群について焦点化していき自分の調べたいことを明確にして課題を設定することができる。 (2) 南阿蘇湧水群の情報を集め，その背景にある阿蘇の自然について調べ，必要な情報を整理したり，まとめたりして課題を解決できる。 (3) 南阿蘇湧水群の課題を話し合い，その解決策を考え，実践できる。 (4) 南阿蘇湧水群や阿蘇の自然のすばらしさについて調べたことを根拠として自分の考えや思いを表現できる。
課 題 を つ か む 力	①中松地区のよさを話し合い，南阿蘇湧水群について調べたいこと，知りたいことをもとに課題を設定している。
考 え る 力	①自分の課題に対してどのような方法で調べるのかを考えている。 ②南阿蘇湧水群の課題についてみんなで話し合いながら解決方法を考えている。 ③自分の考えや思いをどのように伝えれば効果的なのかを考えている。
情 報 を 集 め る 力	①保護者や地域の人，学芸員の方から話を聞いたり，友達や異学年から情報を集めたりしながら，南阿蘇湧水群や阿蘇の自然について調べている。
情報を選び整理する力	①集めた情報を取捨選択して，必要な内容を話し合い情報を整理している。
情 報 を ま と め る 力	①整理した情報から，気付いたことや分かったことを自分なりの方法で分かりやすくまとめている。
か か わ る 力	①気付いたことや分かったことを友達と話し合ったり，全体に発表したりしている。 ②自分たちの気付きや考えをまとめ，生かし，地域の人や自然と積極的に関わっている。
伝 え る 力 (表現する力)	①分かりやすく伝える手段を考え，自分の思いや考えを表現している。 ②友達の気付きを聞いたり，自分の意見を述べたりして，表現の仕方を工夫している。
実 践 す る 力	①地域の課題解決をめざし，協同して実践している。

4 指導・評価の計画（57時間扱い 本時 27／57）

次時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【三つの視点から】	評価の観点（評価方法） B基準
1 5	1 中松の宝物をさがそう。 ○3年時での学習や社会科の校区探検などを思い出し、中松の宝物を考え、イメージマップをつくる。 ・一心行の大桜 ・南阿蘇湧水群（水源） ・オオルリシジミ 等	○自由に発想させ中松のよさをできるだけたくさん出させる。 【視点1】自然、伝統や歴史、人の観点を与えながら分類できるようにする。 ・他教科との関連を図り、学習意欲を高める。	課題をつかむ力①（ノート・観察） 地域の素晴らしい「宝もの」を自分たちで見つけたり、地域の人たちに聞いたりして自分たちの住む中松のよさを見つけようとしている。
2 10	2 水や自然について調べよう。 ○水や自然について知りたいこと ・水や自然を守っている人がいるのか。 ・未来館や蘇水館を訪ねてみたい。（社会科） ○阿蘇の自然や水を守っている方々にインタビューして、新聞にまとめる。 ○まとめたことを発表する。	○未来館・蘇水館や水源ボランティアの方々への質問を考えさせる。 【視点2】インタビューや電話での対応の仕方を練習して、ボランティアの方にアポイントをとり、インタビューをして自分の知りたいことをまとめる。 【視点3】パソコン、表、ポスターなどにまとめ、自分たちの調べたことを可視化する。	情報を集める力①（ノート・観察） 水源や阿蘇の自然について、自分（たち）が知りたいこと不思議に思うことを調べている。 情報を選び整理する力及び情報をまとめる力①（ノート・観察） 集めた情報を分類したり、まとめたりしている。
3 25 （本時27／57）	3 インタビューした方々の共通の思いや願いはどのようなかを話し合い、気付いたことやわかったことを発表する。 ○インタビューした方々の願いに気付いたり、自分たちの感想を発表したりして自分たちにできることを考え、実行する。 ・水源の清掃活動 ○水源の水のおいしさの秘密を調べる。 ・水源の水のおいしさを科学的に調べる。 （阿蘇山、草原のはたらき） ○水源や阿蘇のすばらしさをどのように発信していくのかを考える。 ・水源についての劇やCMづくり ○水源や阿蘇のすばらしさをよりよく伝えるために劇や、CMの方法を話し合ったり、見合ったりして練習する。 ○班や学級で練習を見合いながら、よい点や改善点を出し合う。	○水源の美しさ、水のきれいさに着目させ、その背景には、それを守っている人がいることや、きれいな水を生み出す阿蘇の自然があることに気付かせ、焦点化していく。 【視点1】社会科で学習したことや未来館、蘇水館で働く方の思いや願いについて想起させ、水源ボランティアの方と共通した思いや願いに気付くように促す。 【視点1】相手意識や目的意識を明確にして自分たちのできること、取り組みたいことを話し合い、計画の立案など今後の見通しを立てる。 【視点3】タブレット型PC、デジタルカメラなどを活用して、自分たちのよさや課題を見出す。 【視点2】互いのよさや課題を発表し合ったり、ゲストティーチャーに助言を仰いだりして自分たちの取組を修正し、よりよい発信ができるようにする。	課題をつかむ力①（ノート・観察） 発表したことから、新たな課題を見出している。 情報を集める力①（ノート・観察） 水源や阿蘇の自然を守っている方々の思いや活動、水源の美しさの科学的な根拠等を調べている。 かかわる力①（ノート・観察） 阿蘇の自然や水を守っている人たちの思いを感じ取っている。 考える力③（観察） 水源や阿蘇のよさを、だれに、何のために、どのような方法で伝えるのかを考えている。 伝える力（表現する力）①②（観察） 収集した情報や調べたことをもとに、自分たちの思いがより伝わるためにどうすればよいのかを話し合い、よりよい劇やCMを作り上げている。
4 12	4 自分たちの取組を発信する。 ○計画してきたことを実践する。 ・学習発表会の発表（劇） ・ホームページでの発信（CMなど） ・ボランティア活動	○自分（たち）の伝えたい思いを明確にさせ、発信したり、実践したりさせる。 【視点1】相手意識、目的意識をもとに、わかりやすく伝えるポイントを話し合いながら、よりよい発信を目指し、実践化へと高める。	伝える力（表現する力）①②（観察） これまでの話し合いや練習を生かし、自分（たち）の思いを伝えている。 実践する力①（観察） 自分（たち）の取り組みたいことを主体的に実践している。
5 5	5 自分（たち）の1年間の活動を振り返り、成果と課題、次年度に引き継ぎたいことを話し合い、まとめる。 ○保護者、地域の方、ゲストティーチャーからの言葉や手紙などを紹介して、達成感を味わう。	○児童一人一人がこれまでの取組を振り返り、成果と課題を出し合ったり、互いを認め合ったりして達成感、自己有用感を味わわせる。 【視点3】デジタルポートフォリオを見ながら、自分たちの足跡をたどり、成果と課題を見出す。	かかわる力①（ノート・観察） 自分（たち）の行動が阿蘇の自然環境を守っていることや、地域へ貢献していることに気付いている。 情報をまとめる力①（ノート・観察） これまでの情報をまとめている。

5 本時の学習（第3次 27／57時）

(1) 目標

自分たちの班の案を出したり，他の班の案を聞いたりしながら，自分たちの思いが伝わるような劇を考えることができる。

(2) 評価基準

「考える力」（発表，シート）

（B基準）自分たちの思いが伝わるように場面や台詞等について考えている。

（A基準）自分たちの提案したものに改善点を見出したり，思いがよりよく伝わるようなアドバイスを他の班にしたりしている。

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 3分	1 本時の課題について知る。 (1) 本時の流れをつかむ。 (2) めあてを知る。	T1: 3つの班に分かれて，劇に使いたい場面を考えました。今日は，みんなで意見を出し合いながら思いが伝わるような劇を考え合いたいと思います。	T2: 学習の流れが把握できるように，なかまつカードを黒板に貼る。 A 未来館，蘇水館での話 B 水源ボランティア体験 C 火山博物館の先生の話	学習の流れ カード
展開 39分	みんなで自分たちの思いが伝わるような劇を考えよう！			カード ノート ふきだし
	(3) よりよくするための聞き手の視点を持つ。 2 案を説明した（プレゼンテーション風）後，質問やアドバイスなどを出し合う。（13分×3班） 【言語活動】 必要だと考えた場面を根拠も示しながら伝えたり，自分の体験などを基にして考えたアドバイスや，気づいたよさを発表者へ伝えたりする。	T1: 発表を聞いて，劇では，どんなやりとりをしたらいいのか考えて，アドバイスをください。 T1: 今からA班から案を紹介してもらいます。必要であれば，自分のノートを見てもいいです。 T1: (発表後) ①質問はありませんか？ ②アドバイスを教えてください。 ③よいと思ったところなど，感想を述べましょう。 ④他に取り入れたい場面がありますか？ （C班の時は，T1とT2の役割を交代する。）	T2: 黒板に視点を貼る。 ①質問 ②アドバイス（やりとりのふき出し） ③感想 ④他に取り入れたい場面 T1: 各班の発表の支援をする。 T2: ホワイトボードに写真と理由カードを貼っていく。 T1: 写真にふきだしを貼ったり，意見をホワイトボードに書いたりする。 【視点3】劇に必要な情報（写真）を選び，その写真をもとに劇でのやりとりを考える。 T1: 他に取り入れたい場面は，今まで出し合った感想や，新聞，ノートや活動時の写真をヒントにさせる。 ○児童が他に取り入れたいと思う場面を想定し，いくつか写真を用意しておく。 【視点1】友だちの案を聞いて，どんなやりとりがあればいいのかを考えたり，他に使いたい場面を考えたりする。 【視点2】本時の活動の自己評価をタッチパネルPCに入力させ，児童が自分の意識の変容を分かりやすく振り返ることができるようにする。 評価：考える力（振り返りカード，タッチパネルPC） 自分たちの思いが伝わるような劇を考えている。	ホワイトボード 写真 ふきだし 実物投影機 写真
整理 3分	3 今日の学習を振り返り，次時の見通しを持つ。 (1) 振り返る。 (2) 次時の予告を聞く。	T2: 今日の活動の振り返りをシートの「つ」に書いてください。早く書き終わった人は，自己評価を入力してください。 T1: 次時から，今日出た気持ちを生かして，みんなで一つの劇にするシナリオを作っていきます。	〈B基準に達しない児童への手だて〉 児童に声かけをし，一番心に残る言葉や体験の場面を思い起こさせる。 T1: A基準に達する児童の考えがあったら全体に紹介して次時につながるまとめとして紹介する。	タッチパネルPC 振り返りカード